



広島県小児科医会会長退任挨拶

桑原 正彦

広島県小児科医会が、現在の組織体系になり、日本小児科医会の傘下に入ったのは、昭和 59(1984)年でした。それ以前、「小児科開業医会」「広島小児臨床懇話会」として、同好会の形で活動していました。昭和 55(1980)年、広島県小児科医会を作るための発起人会が結成されました。しかし、調整に時間がかかり、翌年 7 月 16 日、正式に“広島県小児科医会”が結成され、会長に佐野英二先生が就任されました。

その時の、会則第 2 条は「本会は、小児科医療経営の合理化、医政問題を研究し、併せて会員相互の親睦を図ることを目的とする」でした。

その後、全国の小児科医の結集を呼び掛けて、設立メンバーの一人であった佐野英二先生たちが、日本小児科医会を創設されました。昭和 59(1984)年でしたので、我が広島県小児科医会は創設以来のメンバーということになります。

初代会長のご指導により、徐々に会の組織が固まり、行政との交渉も、滑らかに動き始めました。翌年の 12 月には、現在の「広島県小児科医会報」が創刊されました。

佐野先生は、ある日市内で交通事故に遭われ、それがもとの大病でご逝去されました。昭和 63(1988)年、会長は川本功一先生が継承され、平成 10(1998)年まで勤められ、素晴らしく纏まった広島県小児科医会に育て上げられました。

私は、平成 11(1999)年から、第 3 代目の会長として、務めたこととなります。

長い会長暦でした。会員の皆様のご支援を頂き、色々な事に挑戦させていただきました。

県内では、平成 14(2002)年には、第 13 回日本小児科医会セミナー・広島の開催、#8000 の原点である小児救急電話相談事業の県地対協での立ち上げ、市民とともに「健康教室」の開催、「子ども夢財団」の創設と事業の発展などです。県外では、中国四国 9 県小児科医会連絡協議会の立ち上げ、代表幹事として日本小児科医会との連絡や交渉をしました。日本小児科医会では、小児救急・公衆衛生担当理事・副会長として、広域予防接種の拡大事業、「健やか親子 21」協議会への参画、総務省消防庁 #7119 事業の検討委員会 WG、そして #8000 の全国展開などが印象に残っています。

どの事業も、常に、「広島の子ども達ならどうする？」が念頭にありました。

まだ、日本小児救急連絡協議会委員、日本小児科医会小児救急委員会委員、日本小児科医連盟委員長としての「成育基本法案」の国会成立など、いくつかの中央の仕事がありますが、力の限り、頑張ってみたいと思います。ご支援ください。

“広島の小児科医は、広島の子どもたちのために、日本の子ども達のために、全力を尽くします”